

# かんじやと医療

第  
49  
号

(毎月1日発行)

発行所

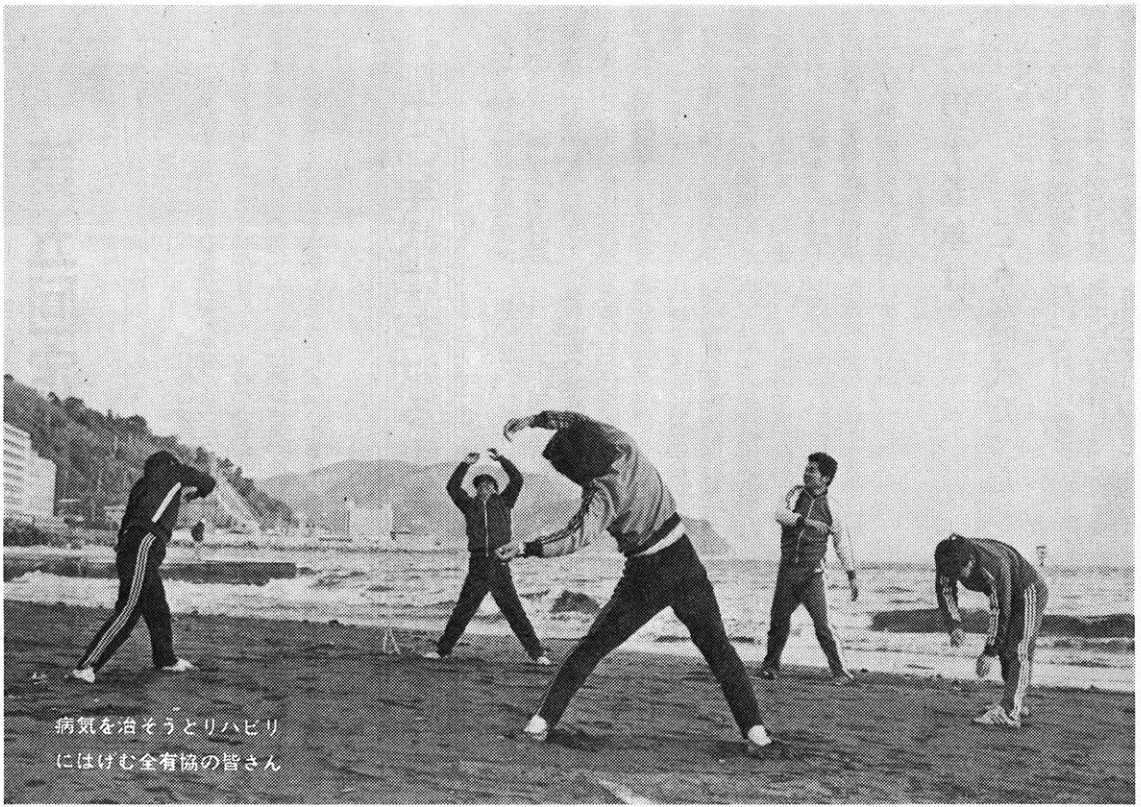
全国患者団体連絡協議会

東京都清瀬市松山2丁目13の12

〒180-04電話(0424)93-5871番

郵便振替東京2-4152

購読料 1部110円 6ヵ月分660円



病気を治そうとリハビリ  
にはげむ全有協の皆さん

## おもな記事

全患連第五回大会議案

## 特集号

- 七〇年代患者運動の歩み 2
- 全患連の果たした役割 3
- 患者運動の教訓 4
- 七九年度運動方針案 5
- 大会宣言案 6
- 五大統一要求かかげ 7
- 組織方針案 8

### 【おわび】

今号は大会議案特集のため一般記事は割愛しました。なお発行のおくれについても合せてお詫びします。

北から  
南から

# 国民本位の医療と 福祉づくりの運動を

## 第五回定期大会議案

### 全国患者団体連絡協議会

秋も深まり北の方から初雪の便りを聞くようになりましたが皆さんいかがお過ごしでしょうか。全患連も創立五周年を迎え、第五回大会を開くことになりました。十月の予定が十二月になりましたが、今回は七〇年代における患者と家族運動の歩みをまとめて発表すると同時に、八一年の国際障害者年をむかえるにふさわしい来年にかけての新しい運動方針を発表します。全組織でのご討議をお願いすると共に大会への参加と激励などお寄せ下さるようご案内いたします。

## 七〇年代における患者運動の歩み

全国患者団体連絡協議会は創

立以来五年目、準備会を入れると十五年になります。

来年には一九八〇年代に入り再来年には国際障害者年を迎えます。

八〇年代にむけて、どういう目標をたて、どんな運動をするかを討議するに当って、六〇年代後半から現段階までのほぼ十五年の患者、家族運動をふりかえってみる事が求められています。

### この十五年は

#### こんな時代だった

七十年代は、国民の生命と健康をこのように守るかが、社会

倒閉した岸内閣のあとをうけて、登場した池田内閣は、所得倍増計画とともに減税、社会保障充実、公共事業拡大の公約をかかげました。「経済は池田におまかせください」と高度経済成長政策をすすめる、山紫水明といわれた日本の国土と環境を破壊し、公害をもたらし、そのため七〇年十一月から十二月の臨時国会は「公害国会」といわれ、十四の公害関係法の成立をみるなど七〇年代初頭の象徴的なものでした。

大気汚染、水質汚濁、騒音、有害食品、薬害など数多くの公害が国民の健康を蝕び、生存に脅威を与えました。交通事故被災者、労働災害・職業病、原因

不明の難病も増大し、国民の有病率は一九五五年度の国民一、〇〇〇人に対して三八人から七一年度には二一〇・三と三・八倍に増えていきます。一方、患者数の増大に対し、医療供給体制は貧弱で待ち時間三時間、診療三分、患者のたらいまわしといった医療荒廃はひどく、医療過誤、前述の薬害も続発しました。難病の原因究明と治療法の確立、多額の医療費負担の解消を求め運動もつよまり一九七二年は全国難病団体連絡協議会が誕生、すでに一九七五年二月に準備会を発足させ、学習会、交流会、統一行動を定期的に重ね患者運動の幅を広げ、統一の努力をかたむけてきた全国患者団体連絡協議会が一九七五年正式に結成をみました。

所得倍増ならぬ物価倍増をまねくなど高度経済成長政策の矛盾と社会保障拡充の国民的運動を前に、田中内閣は「福祉元年」をいじりましたが、翌年の七三年秋の石油ショックは、自主性を欠いたエネルギー、経済政策を露呈し、狂乱物価をまねき患者、障害者と家族の生活を一段とおびやかすようになりました。



七〇年代後半に入って地方財政の危機が深まり、患者の運動を激励し、国に先きかけて福祉をすすめてきた革新自治体への攻撃「福祉バラマキ」論がふりまかれ、国の政治も革新自治体



全腎協の79年度の国会請願

のようになればいいという願いをよそに、革新自治体をつぎつぎとOKYO作戦がすすめられ、患者の要求実現の運動もいっそうきびしさをくわえてきました。根本的に解消するのはなく、薬代半額患者負担、給食費患者負担などの受診抑制と保険料増収、相互扶助的な財政調整できりぬげようとしています。

そうした情勢を反映して患者運動の分野でも幅広い患者、家族の統一した運動の発展が求められ、七八年四月、ゆたかな医療と福祉の実現をめざす患者・家族集會がひらかれ、日本の医療の歴史に画期的な一頁を刻しました。

政府は八十年代にむけて高齢化社会になっても、大企業本位の政治経済をつづけるために、財政危機を理由に福祉きりすての政策を医療、年金をはじめ全般的にわたってつよめてきており、医療保険財政の「赤字」を

七〇年代の運動は全疾病を包んだ。六〇年代の後半から七〇年代にかけて、患者の運動は大きな前進をみせました。現在、全患連の八団体、全難連の十三団体。地域難病連は二十一県に組織をつくり活動しています。また、薬害被害者団体も六団体それぞれ組織をつくり、スモンの会全国連絡協議会のように大運動を勝利に導こうとしています。このほかに疾病別の全国組織あるいは地域組織もつづられ、おおよそ五十種類

運動の高揚期に全患連の果たした役割。六〇年代から七〇年代にかけての約十五間に於ける患者と家族の運動による特徴的な成果と実績をまとめると同時に、そのなかに於ける全患連・八団体の運動による成果と果たした役割についても次ぎのようにまとめ評価したいと思います。

一、各団体の独自運動による成果  
1、六六年、結核など呼吸器障害者・心臓病による障害者を対象として拡大させまし

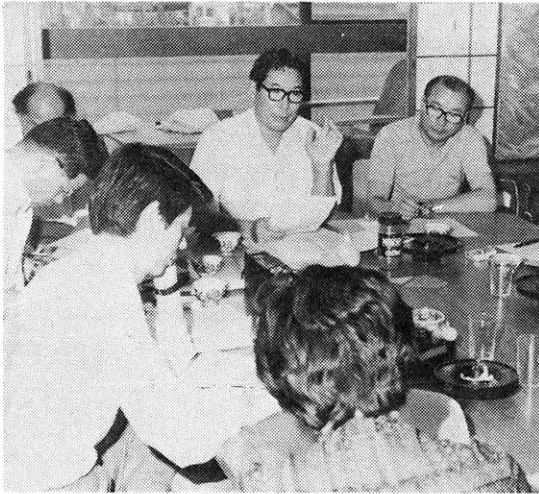
た。二、全患連の運動の成果  
1、七二年、車椅子で初の参議院社会労働委員会に陳述を行い、七三年には傍聴者用エレベータを設備させました。  
2、七三年、障害福祉年金に二級障害への受給権を認めさせ翌年から実施させました。  
3、七四年、労働省は初めて結核・心臓・腎臓障害者を身体障害者雇用促進法の対象として認めさせました。  
4、七五年、郵便料金値上げに反対し、患者・障害者団体発行の機関誌「紙の郵送料を低料金第三種扱いを認めさせました」。

た。八、七八年、各種公費負担医療の改善に反対し、改善の国会提出を中止させました。  
9、この年、労働省交渉において、翌年度には「労災・職業病対策を労働省の重点課題にする」ことを約束させました。  
このほか、むちうち症の治療研究、じん肺の合併症死亡を業務上補償にする、育損センターの調査費の予算化、障害年金と一時金の併給などを職業病団体と共同で認めさせました。

10、七六年以後、「障害年金改正をすすめる会」の結成ならびに障害年金改正運動による①廃疾認定日の短縮化、②厚生年金の事後重症の新設、③障害年金の通年制度の新設などの改正で中心的な役割りを果たしました。  
11、七八年、「全国患者・家族集會」を成功させるために全難連、地域難連、薬害被害者団体など五十一団体の統一運動で重要な役割りを果たした。

三、国民の民主的な運動による成果  
1、六九年、老人医療費支給制度の実現をさせました。

5、七四年、輸血による医療費の患者負担を保険負担に切り



全患連幹事会の第7回学習会

2、七〇年、医療保険の薬代患者負担(一剤十五円)を廃止させました。

3、七三年、医療保険の家族給付を六割から七割に引き上げと共に高額療養費支給制度の実施をさせました。

4、七六年、健康保険の改悪による初診料、入院時患者負担の増額などをくいとめました。

5、七八年、健康保険の改悪による初診料二百円を二百円、入院時負担八十円を二百円、高額療養費三万九千円を五万一千円、ボーナス保険料の新設などを再び廃案にさせま

した。

しかし、十二月九日には共產党を除く五党合意によって廃案になったものを継続審議にしました。

6、七九年、薬害被害者の救済制度の創設について、製薬独占と政府責任の明確化、既発生の副作用被害者を含めた補償制度の要求は、スモンの会、全国連絡協議会やクロロキン被害者の会などの運動、民主的な弁護団、千代田地区労働者の援助、全国患者・家族集会の国会請願の採択などによって認められました。

# 七九年度運動の成果

この一年、全患連は加盟団体と力を合せて次のような運動をすすめて、患者と家族の要求を実現し成果を上げてきました。

最も重要な運動として、第四次大会の特別決議にもとづいて「医療保障は国民本位に」を柱にして、健康保険の改悪(薬代半額・給食代一日千円の患者負担など)に反対するため、全難連と協力し合せて、厚生省保険局の説明会を開きました。そして、公衆衛生局企画課がすすめていた各種公費医療の改悪(公費優先制度を保険優先にする、公費負担を切りつめて保険にもついでいく等を事前に把握して、いち早く反対を申し入れました。その結果、今年の春の国会に法案を提出(出舟はおくれとも港には健保と同時に)を中止させ現在に至っています。

なお、健保、公費の運動改悪に反対する運動を「全国患者・家族集会」の運動として、統一的な国会請願を行いました。健保改悪案は、六月十四日「財政調整法案」と共に航空機騒音をかきためたために国会を閉会したために廃案になりました。

に対して、厚生省、労働省に合せて五十七項目にわたる患者と家族の要求による予算化と制度改善を申し入れました。これについては厳しい状況が生れていますが、大蔵原案編成と国会審議にかけて奮闘しなければなりません。

年金については、国会審議における追及もあって、福祉年金一万円、厚生年金、国民年金にスライド三・四割(五割以下も実施要求)に成功しました。

また、この一年、患者白書作成準備にも専念しました。特に全難連などの協力も得て「患者実態調査」の実施にこぎつてきました。八〇年代初頭と国際障害者年を目前にして患者白書を患者団体自身の手で発行することは極めて有意義な事業として、社会的に大きな評価をうけるでしょう。

## 七〇年代における患者運動の特徴

### 患者運動の特徴教訓

1、老人医療の無料化を全国的に波及させた運動、公害反対運動などに激励されて、特に各地方に革新自治体がつきかたつきと誕生することによって、運動の成果が上がるようになりまし。

2、この間に特に「運動の視野をひろげた」とは特徴的なことです。それぞれの疾病別組織が生じたことと共に、全患連、全難連の結成がありましたし、二十二都道府県に地域難病連がつくられたことです。

3、この間、政府の患者運動に対する対応の特徴ですが、患者と労働者、患者と国民、患者団体間など各分野にわたって、予算とか行政を使つての分断ときりくずしが際だつたのが特徴です。

私たちは、この分断と切りくずしに反対し、共通する要求で運動の統一と組織の団結を拡大してきました。

このように運動の前進によって、今まで運動に参加できな

# 医療と福祉、生活の危機を

## 打開する国民的大運動に

### 七九年度運動方針案

#### 私たちの実態と願い

心臓病患者の願いは、医学と医療が進歩したことにより治せる病気になりましたが、手術後の医学的管理を必要とする。生涯病として医学の進歩を更に望み、発作などの救急医療、差額ベッド代などの解消、特に児童の場合は医療と教育の両立、安心して働ける職場への就職など、さまざま総合的なものとなっています。

腎臓病患者の願いは、予防が不十分なために人工透析が年々増えていることと透析治療の水増格差是正と離島対策であり、慢性腎炎・ネフローゼの医療費の公費負担化、腎臓移植の研究促進と受入れ態勢の整備、雇用の促進など切実な総合的な対策

を求めているものとなっています。人工肛門、尿路変更の手術を受けた患者・障害者の願いは、医学・医療の進歩で命が助けられるのはよい事ですが、単なる手術だけでなく、医療管理、健康管理と生活・労働の仕方などを専門技術によって援助する制度づくり、あるいは、障害者と認め、器買の公費支給、障害年金の改善など新しい切実なものをかかえています。

結核患者の願いは、患者が減少するとはいえ、社会病としての予防と十分な医療保障・社会復帰対策の改善を将来的にも安心できるように求めています。

ハンセン氏病患者・障害者の願いは、偏見の解消による人権

の回復、併発病治療の受入れ体制の確立、医療の拡充と職員の増員、各療養所の施設整備などを将来的にも安心してできる保障を求めています。

労働災害被災者と職業病患者の願いは、「労災かくし」、職業病かくし」をなくし、早期認定と早期治療を求めた予防・治療・リハビリテーション・原職

を強く求めています。医療と福祉、安心のできる生活を強く求めています。

そして、その願いは、全体と共通する患者や家族の要求でもあり、国民的な課題でもあります。

#### こころの運動の展望

こうした私たちの実態と願いは、一体これから先はどうなるのでしょうか。

すでに政府は、来年にかけてバス料金一〇％、消費者米価六％、国鉄運賃四・九％、はがき四〇円に、電気料二・三〇％などを続々と値上げしようとして

無茶な計画がされています。このうち、一般消費税の新設・増税計画もすめられています。

計画されています。

労災・職業痛対策に於いても労働基準法・労災保険法の改悪が計画され、労働者や経営者側から、①労働契約を後退させ解雇を容易にする、②労働福祉事業の「合理化」、③保険給付の不服申立てを企業側に許す、④労災認定に産業医の活用など全面的な改悪が準備されています。

また一方、医療や福祉の面に於いても、政府は「日本型福祉社会」をつくるとして、医療保険の改悪（保険料値上げ・薬代と給食代で二万円の患者負担に）と給食代で二万円の患者負担に）と給食代で二万円の患者負担にする。とか、老人医療の有料化など公費負担医療の改悪計画、年金制度の改悪では保険料の大幅値上げ・老齢年金の支給開始を六十五歳にする、個人単位の年金を世帯単位にする、障害年金の一本化・福祉税の新設など

こうした事も明らかに。以上のような政府・自民党の姿勢は、ロッキードやケラマンの疑獄かくしや革新自治体つぶしなどと合せて、十月の総選挙で国民的な批判を受けました。

たよりに、すでに、生活や医療と福祉の危機を打開しようとする国民的な大運動が、つぎのよう



なご政府の「新経済七ヵ年計画」によりますと、社会保障負担で国民一人一月分を三・五七倍（昭和五十年七千円を六十年に二万五千円）にするという

# 国民本位の医療と福祉を

## 求める運動をめざして

十一月五日・六日には東京で

「第十八回全国消費者大会が開

催されました。この大会は「国

民の不安をかきたてる大型石油

ショックや狂乱物価の再来問

し」とみて、「第二の石油危機

はなげくるのか」を明らかにし

ています。一般消費税、増税、

公共料金値上げ反対、医療・年

金などの受益者負担反対の大運

動を決議しました。

十一月二十七日には「くらし

と福祉の危機を打開する予算要

求大集会」が東京で開催されま

す。

これには、低所得者・失業者

高齢者・障害者などが参加し大

運動を盛り上げること

を決議し

ようとしています。

年に対して「障害者の生活と権

利を守る全国連絡協議会」は年

金・福祉・教育・労働・生活な

どの基本要求をかけた、障害者

関係法の全面改正を要求する国

会への大運動を決議します。そ

して二万人の全国集会を開く事

を決議しようとしています。

医療と福祉の面では、医療関

係団体による「医療をよくする

「一人人集い」も準備されてきて

います。

このように国民各層の運動は

危機の打開を求めて急速に盛り

上げてきています。

私たち患者・家族もこうした

国民各層の運動に励まされなが

ら、それへの参加と同時に自づ

から運動を盛り上げることが強

く求められています。

そして、八〇年代には生活と

医療・福祉の危機をのりこえて

着実に患者本位・国民本位の医

療と福祉づくりの展望をきりひ

わが国において患者運動が

飛躍を遂げた七〇年代の最終

盤において、全国患者団体連

絡協議会は、今日ここに第五

回定期大会を開催しました。

この大会は、七〇年代にお

ける患者・家族運動の土台で

ある組織づくりと数々の成果

を確認しました。そして、運

動の視野をひろげることによ

って、障害年金改正をすすめ

る会(五十四団体)、全国患

者・家族集い実行委員会

(五十一団体)による大統一

運動などから貴重な教訓を導

きたした「七〇年代における

患者運動の歩み」をまとめ発

表しました。

あと二十四日で一九八〇年

代を迎えます。

私たちは、全国の患者・家

族の最大の願である「安心

して病気の治せる・健康で平

和な生活を築く」ために、政

府・自民党の医療と福祉の後

皆さんに今以上のご支援を訴

えます。

# 大会宣言(案)

私たちは、八〇年代初頭に

は医療関係団体にもよびか

け、大統一運動を展開するこ

とを決議します。

右宣言します。

一九七九年二月九日

全国患者団体連絡協議会

第五回定期大会

# 患者運動

長 宏 著 勁草書房刊  
定価 1,200円 千160円

世界でもめずらしい、といわれる「患者運動」  
が、なぜ日本だけに発生したのか。  
人権意識をもって立ち上った患者運動の現状  
と課題を明らかにしています。必読の書。

お申込み 現金(切手も可)でお申込み下さい。  
全国患者団体連絡協議会 東京都清瀬市松山2-13-12

## 「かんじやと医療」

### 「購読のおねがい」

本誌は、全国患者団体 さらにお願ひします。  
連絡協議会(略称・全患 申込先 千一八〇一〇四  
連)の機関誌です。 東京都清瀬市松山  
読者の皆さんから、患 二一三一一二本  
者や家族、一般の方々 誌編集委員会まで  
ぜひ購読をおすすめくだ 購読料六ヶ月六六〇円

# 運動目標

## とすめ方

### 五大統一要求かかげ

# 地域から運動を

新年度の運動方針にあわせて長期的な目標もふくめた提案をします。

告における教訓を生かしながら、次ぎのような運動目標(運動のすめ方)を提案します。

いまの「私たちの実態(願い)をふまえて、情勢でも明確になつた「医療(福祉、生活の危機を打開する「国民本位の医療(福祉づくり)」の運動をすめま

ていきまと思っています。それから「五大統一要求」にの拡大を要求しようではありませんか。

具体的にはつきのような内容で取り組みましょう。  
(1) 統一五大要求の実現をめざす方向で、しかも、住民本位の「地域医療と福祉づくり」の運動として具体化しながらすめましょう。  
なお、昨年の大会で決議された①救急患者の自主的登録制度新設②救急患者の受入れ体制確立③人工臓器等患者の看護制度新設の三つについては「地域医療と福祉づくり」の一つの内容

としていきましよう。  
(2) 統一五大要求をもち込んだ国民本位の「医療と福祉づくり」については、他の患者・家族団体や医療関係団体にもよびかけて、共同の事業としてすめるようにしていましよう。  
(3) 二つの運動がついて発展することを望む気運の盛り上りに合せて「患者、医療関係者全国集会(仮称)を開催できるようにい



ま、この「五大統一要求」は、今後の運動のなかで補強し、その運動の目標として、「五大統一要求」を将来的にも取り組む基本的で共通のものとして位置づけようではありませんか。

- (統一要求の実現)
- (1) いのちと健康、医療と福祉の保障を要求しよう
  - (2) 健康で文化的な生活の保障を要求しよう
  - (3) 病気や障害を理由にした首切りをなくし、雇用の促進を要求しよう

- (4) 労働災害・職業病の総合的な補償制度の確立を要求しよう
- (5) 安心して病気の治せる民主的権利の保障と平和な社会を要求しよう

## 運動のすめ方

七九年度の運動のすめ方としては、①統一要求(従来要もふくむ)の実現をめざすこと、②患者・家族運動と医療関係者(団体)運動の協力関係が強く求められているのを反映させて、患者・家族

運動と医療関係者運動の全国集会を開催します。

そのためには、これらの運動の基礎となっている各加盟団体の運動のいっそうの前進が強く求められていることです。

## 創立五周年記念事業

- 1、患者白書を発行します。(別表) 配布して討議をお願いし、全体の意見を反映させます。
- 2、患者の権利宣言について、せてため、そして適当な時期に発表します。



厚生省、曾根田官房長に予算要求をする全患連、全難連の代表の皆さん、今年1月6日。

# 八〇年代の展望にふさわしい

## 患者や家族の多くが参加できる組織づくりを

これからはいっそう生活や医療と福祉の不安が増大するにつれて、少なからぬ患者や家族から、生活や医療相談がもち込まれると共に、廻り(近)組織が強く求められるようになってくると思われまます。

### 学習によって

#### 運動の質を高める

1、幹事会の理論・活動水準を求めに応じて高めあう学習会

2、情勢変化に対応した方針づきり、見も聞く機会をつくりまます。

### 将来にむけての

#### 展望委員会を設置

患者運動の新たな段階をむか

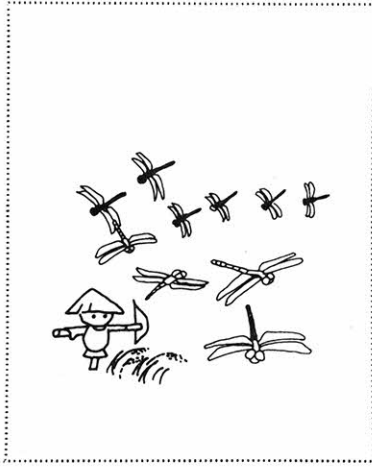
えて、全患連の果たすべき役割や組織・財政などをふくめて、種々の質問と意見が各団体の方法を研究しまます。

### 患者の期待に応える

#### 組織づくりをすすめる

1、疾病別にみてまた組織のできていないものについての自主的な組織づくりを引きつづいて援助していきまます。

2、「全国患者・家族集会」実行委員会」の運動強化の期



### 運動と組織活動を

#### 支える財政づくり

1、財政の基本を分担金と機関誌購読料におきまますが、各団体の事情も考慮して、当面は患者白書発行ならびに「障害年金改正をすすめる会」の国会請願募金をつめ、来秋に予定する「患者と医療関係者に

よる全国集会(仮称)」を成

功させるための資金あつめなどの努力によって財政を健全化の方向をめざしまます。

2、七八年度の赤字繰(四十万六千七百十七円)は、七九年

度の各支出を削減して解消をはかりまます。

## 全患連定期大会案内

### 12月9日(日)

午前10時30分より4時30分

場所はきまりしだいご連絡いたします。